

な体制の中で、林業プロジェクト一つをとっていても、JICA 本部・在外事務所、現地プロジェクトサイト、関係各機関、国内支援委員会等において多くの方々に関わり、より良い林業協力を目指して日々努力を重ねている。このような努力が確実に実を結ぶよう、また学生をはじめ多くの一般の人々に認識を深めてもらい世論の協力を得られるよう JICA は頑張らなければならない。私自身については、幸いながら専門家の方々にお会いする機会に恵まれているため、様々な意見をよく聴いてまずは勉強させていただくことが必要と思っている。

新刊紹介

◎作業法 (MATTHEWS, J.D.: Silvicultural Systems. Clarendon Press·Oxford, 284 pp., 1989, ¥ 10,560 税込)

著者は Aberdeen 大学名誉教授で、かつて IUFRO の Section Leader として活躍された造林学の権威である。

本書の第 I 部では、“作業法の理論的背景”として、森林生態学と遺伝学・施業林の保護的機能・森林の被害防除及び造林学と森林経理学の関係、を解説し、第 II 部では“各種作業法”について一般的な記述・得失及び実践への適用、が主として述べられている。

このなかから、熱帯林に特に関係のあるものを摘録すると：

第 I 部では、熱帯多雨林における野生動植物天然集団の保全・機械的（伐木集材）被害及び木材市場が造林に及ぼす影響について特に解説している。

第 II 部では、傘伐作業 (Shelterwood systems) の章で天然更新を果す機能について解説し、熱帯傘伐作業の章では、マライ均等作業 (The Malayan uniform system)・Uganda と India への適用及び熱帯多雨林の間伐が、また変換 (Conversion) の章では保育伐採・混交林への適用及びエンリッチメント (Enrichment) が解説されている。

ちなみに、Enrichment は「劣悪林において主要樹種の割合を高める各種の手段を含み、熱帯林でのそれは、一般に天然または開発結果による lines, strips, まれに gaps に、まき付けや植付けによって行われる。」と定義している。この Enrichment に合意された邦訳は未だないが、筆者は上記の定義から「有用樹種の更新補整」としておく。

本書は、総括して作業法に関する最新の基礎的・実践的情報を知ることのできる、きわめて価値ある出版である。

(坂口勝美)